



News Release ニュース・リリース News Release ニュース・リリース

2012年11月7日

ジョン・レノンの失われたバンジョー — 今見つければ数百万の価値! —

10月5日にザ・ビートルズ 50周年を迎えた今年。その全てを叶えた楽器が半世紀を越えて今も紛失したままになっているということは信じがたい事実です。ジョン・レノンの母、ジュリア・レノン。問題のこの品は、彼女が一時は所有していたというバンジョー。それは彼女が息子のジョンに教え、ジョンが最初に手にした、弾いた楽器なのです。

考えてもみてください。もし、そのバンジョーがなければビートルズ自体ありえなかったでしょうし、彼らがいなければ、今日私たちが知っているビートルズの世界、その全ては異なっていたに違いありません。

このバンジョーが姿を消したのは1958年、ジュリアが交通事故で死亡して間もなくのことです。ジョンが1980年に亡くなる直前まで、彼はそれについて語ってはいたにもかかわらず、それがいったいどうなったのか、それについて彼が実際に語ることは決してありませんでした。値が付かないほどのこの楽器は、今もどこかに眠っており、発見されるのを待っているだろうと多くの人達は信じています。もしそれが見つかったならば…。1つだけ確実なこと、それは、幸運な発見者は百万の富を手にするであろうということです！

となれば、この神聖なるポップス界の遺品を、あなたならどこから探し始めますか。「ジュリアのバンジョー（原題名：Julia's Banjo）」、エキサイティングなこの物語の中に答えはあります！世界を変えることになった、その発端であるこの品を発見する、という魅惑の「ビートルズ王国」探検ツアーに本書は読者をいざないます。事実とフィクションが巧みに織りなす物語は読者を掻き立て、ハラハラドキドキ、その一行一行全てが本当であると信じさせるほど、物語は最後まで続きます。

レノン家の“失われたバンジョー”にまつわる陰謀とミステリー、それがひょっとしたら誰かの屋根裏に今も眠っているかもしれないという推理は、世界のメディアの見出しを賑わす可能性を秘めています。

ビートルズ・ファンやコレクターにとっては、舞台裏の真実を知る、必須アイテムです。

新刊書情報

題名： Julia's Banjo
言語： 英語
ジャンル： 洋書 小説
著者： Rob Fennah & Helen A Jones ロブ・フェナー&ヘレン・A.ジョーンズ
様式&発売日： 電子書籍：2012年9月25日（イギリス発売日）
➤ アマゾン Kindle <http://www.amazon.co.jp/> <http://www.amazon.com/>
➤ 楽天 kobo <http://kobo.rakuten.co.jp/>
ペーパーバック版（近日発売）
出版社： Pulse Records Ltd. パルス・レコーズ（イギリス）
ファイブ・クロスカルチュラル・メディア株式会社（国内連絡先）

詳細はウェブサイトをご覧ください。 www.juliasbanjo.com

お問い合わせ： info@pulse-records.co.uk（イギリス）
office.tokyo@five-crosscultural.com（日本国内）





Release Update リリースアップデート Release Update リリースアップデート

2012年11月22日

JULIA'S BANJO ジュリアのバンジョー

— この物語の背景にある事実について —

By Rob Fennah 著者：ロブ・フェナー

「僕が“弾く”ことを習い始めた最初の曲が“*That'll Be The Day*”。母さんが僕にバンジョーで教えてくれたんだ。僕が何とか全てのコードをできるようになるまで、いつまでも辛抱強くそこに座ってね。」 --- ジョン・レノン

それは数年前、“ザ・ビートルズを引き渡した男（仮訳）（原題：The Man Who Gave The Beatles Away）”の書で不名誉にも知られるビートルズの初代マネージャー、アラン・ウィリアムズ（Allan Williams）と共にビートルズ・コンベンションに参加した時のことです。「ビートルズ思い出の品々」がどれほど多くの人々の手を経て、持ち主が転々と変わってきたか、私はその一日を通して目にしました。40年以上前に、最後となるギターコードをかき鳴らして活動を終えたこのバンドに、興奮を抑えきれないほど関心があった私は、どんなにそれに驚嘆したかをそこで述べました。

しばらくして話題は「ポップス思い出の品々」に移りました。特にサザビーのオークションで50万ポンド（6,500万円）と高値の付いた、かつてジョン・レノンが所有していたピアノの話題になりました。1台のピアノにこのような多額を支払うという道德感について、アランと私が議論していたところ、我々の会話を聞いていた、あるディーラーがぱっと顔を上げ、そして言いました。「これはジュリアのバンジョーに付く値段とは、とても比べ物になりません！」

そのディーラーは話を続け、ジョンの母、ジュリアが自分のバンジョーでバディー・ホリー（Buddy Holly）の“*That'll Be The Day*”を弾いて息子に教えた事、そしてジョンをどのように音楽の世界に導いていったのかを私に話してくれました。

「じゃあ、ロック界の最も偉大で伝説的な人物が初めて弾くことを習ったという、その楽器はどこにあるのですか」と私は尋ねました。

「行方不明です」そのディーラーは答え、「しかも50年間、いやそれ以上ずっと」と。

これでこの話は終わりのはずでした。しかしその数週間後のことです。格安品をあさるバーゲン・ハンターが、ガレージセール（ガラクタ市）で古いスーツケースをたった15ポンド（2,000円）で購入したところ、その中を開けると、値段がつけられないほどの「ビートルズ思い出の品々」が詰まっているのが見つかったのです。それがどれほど幸運だったことか。このニュースを聞いて私の“ジュリアのバンジョー”に対する関心は再燃しました。

そしてこの発見の数日後さらに、ヘフナーのギターが、リバプールのメンローブ・アヴェニューにあるジョンの旧宅の屋根裏で発見され、これが600万ドル（4.8億円）相当に値す

ると騒がれました。ひょっとしたらジュリアのバンジョーもまだそこに眠っている可能性があるのか、見つけられるのをじっと待っているのだろうか…。

その後、ジョンの異父妹であるジュリア・ベアード氏や数人のビートルズ専門家に話を聞いたところ、ビートルズ・コンベンションで、あの時ディーラーが私に言ったことは本当であると知って驚きました。

このバンジョーが行方不明になったのは、ジョンの母、ジュリアが交通事故で無くなった直後のことです。そしてまた、この事故はジョンが彼の生涯を通して忘れることのなかった出来事でした。のちに彼は“ジュリア”と“マザー”の曲の中で彼女を不朽のものにしています。彼女が残したバンジョー、それはジョンにとって唯一、母親と物質的につながっていたものであり、彼の心に最も身近な存在であったに違いないといえるでしょう。

更なる調査では、ジョンが何度もインタビューの中でジュリアのバンジョーについて語っただけではなく、まさにそれは、「ザ・ビートルズ・アンソロジー」の冒頭陳述の主題であることが明らかになったのです。

「ならば、この神聖なるポップス界の遺品をどこから探し始めることにしたらよいでしょうか。」私は妹のジュリア・ベアード氏に冗談めかして尋ねました。「ひょっとしてジョンがどこかに隠したとか」と付け加えて。

すると彼女は暫く私の言ったことを考えていましたが、私の目をまっすぐに見て答えました。「何か知っているのですか、母が亡くなった後、それはまさにジョンがしようとしたことなのです」と…。

「うわあ！小説にするとしたら、なんて素晴らしいアイデアだろう！」私はそう考えました。

著者： Rob Fennah ロブ・フェナー

1958年リバプール生まれ。1976年、学校を卒業と同時にRCAレコードとメジャー契約、音楽業界でのキャリアを開始。ヨーロッパと日本で数多くのヒット曲があり、19歳の時、彼にとって初めてのゴールドディスクアルバムを受賞。オーストラリア、シドニーのオペラハウス、東京の武道館など、世界でも特に有名な会場でコンサート公演をした。テレビや映画の音楽制作も手がけている。近年は、ヘレン・フォスター原作のベストセラー、「Twopence to Cross the Mersey」の劇場版ミュージカルの脚本、制作、監督、プロデュースの全てをまとめ、率いて大成功を収める。現在、「Julia's Banjo」の映画と劇場版の公演に向けて脚本を執筆、および制作中。

Helen A Jones ヘレン・A.ジョーンズ

1965年生まれ。1988年にリバプールで看護大学を卒業。神経科救急救命分野の上席看護師として20年以上の臨床経験があり、理学修士(Master of Science)を取得、救命救急関連の書を出版。多大なる称賛で大成功を収めた、上記の「Twopence to Cross the Mersey」のミュージカルでは、ロブ・フェナーと共に、共同制作者として携わり、「Julia's Banjo」の映画版、劇場版もフェナーと共に手がける。





Release Update リリースアップデート Release Update リリースアップデート

2012年11月28日

Rob Fennah Helen A Jones

「Julia's Banjo」

神聖なるポップス界の遺品

— 果たして見つかるのでしょうか —

ジョン・レノンが10代の頃、ジョンの母、ジュリアは、彼女のバンジョーでジョンに“弾く”ことを教えました。しかし、そのバンジョーは行方不明になってしまい、それがどうなってしまったのか誰も知らない…。今日見つければ何百万もの価値があるという、このポップス界の遺品、「ジュリアのバンジョー」にまつわるミステリアスで好奇心をそそられる小説が、ロブ・フェナーとヘレン・A.ジョーンズの共著により9月25日にイギリスで出版されました。

1962年10月15日、その日を覚えている人の多くはむしろ忘れようとする日です。アメリカが、キューバで建設中のソビエトのミサイルを撮影した偵察写真を暴露し、核戦争に向かっていて世界を震撼させたのでした。その10日前の10月5日、イギリス・リバプール出身の4人の音楽好きの若者が、初めてのポップスレコード、「ラブ・ミー・ドウ」を発売し、もっと平和的な手段で世界を征服するがごとく出現しました。これら二つの出来事は、世界中に大きな衝撃を与えました。

しかし今日、世界中のメディアの見出しを賑わしたのは、結局二者のうちの後者、ザ・ビートルズの50周年記念です。この“ファブ・フォー (Fab Four)”に関して、新たに何かを発見するというのはとても困難なことです。そもそも、その全てはすでに書き尽くされているのでしょうか。いえいえ、まだあります。

ジョン・レノンが初めて“弾く”ことを習った楽器が、彼の母親のバンジョーであったことはよく知られています。ジョンは、バディー・ホリー (Buddy Holly) のクラシック、“That'll Be The Day”を何時間もかけて彼に教えたという母、ジュリアにまつわる数々の心温まる話をしていまして、「僕が何とか全てのコードをできるようになるまで、いつまでも辛抱強くそこに座ってね」と。

ジョンをロックンロールの世界に導き、彼の音楽の夢を積極的に追いかけるようにと励ましたのは、彼と一緒に暮らしていたミニ叔母さんの反対をよそに、ジュリアでした。

母親がジョンに教えているところをいつも見ていたジョンの義父妹、ジュリア・ベアード氏いわく、「裏側に真珠層細工が施されたバンジョーに、ジョンが夢中で熱中していたのが明らかに見てとれました。そのバンジョーは、彼の祖父が、かつて船旅から持ち帰り、所有していた物で、その後我々の母に残したものです。」となれば、もしジュリアのバンジョーが無ければビートルズはありえなかったであろうし、彼らがいなければ今日私たちが知っている物事の全てはそれと異なっていたに違いない、と言っても過言ではないでしょう。

この神聖なるポップス界の遺品は、いったいどこにあるのでしょうか。そうです、その全てがこの物語なのです。1958年にジュリア・レノンが他界した直後、このバンジョーは行方がわからなくなり、それ以降、誰も目にしたことがないのです。意外にも、ジョンの家族も多くのビートルズ専門家も誰もその在り処に、あるいはそれがどうなったのか、明らかにできないままです。このお金では買えない、大変貴重な遺品に何が起こったのか、ジョンが明かすことはありませんでした。そしてポップス界の大いなる謎として今も残されたままです。しかし、1つだけ確かなことがあります。このバンジョーが再び姿を現すことになれば、その幸運な発見者は、もはや生活に困ることはなく働かずにすむことになるであろうということです。2000年、ジョンのピアノがサザビーの競売で150万ポンド (1.95億円) の値がつき、それはまた同時に、このバンジョーがいくりに相当するのかということを示唆することになります。ある人達は、あと数百万はするだろうと議論しています。それはただ単にロックンロール界の伝説の人物が“弾く”ことを習った最初の楽器であるからというわけではなく、世界を変えた、その重要なきっかけになった品だからです！

しかし、我々が皆、それぞれ屋根裏と地下室を捜し始める前に、まずは解決しなければならない重要な問題があります。というのは、この幻の楽器がバンジョーの形をしているということ以外、実際にはどのようなものなのかということです。それには、その由来や出処を確実に識別できる何か決め手になる印や特徴があるのでしょうか。ジョンがそのバンジョーを演奏している写真はあり

ません。となれば、どのように、それを証明することができるのでしょうか。そんな中、ジュリア・ベアード氏の説明が、我々に二、三の重要な手掛かりを提供してくれます。バンジョーは、1930年頃、海外で作られたもので、裏側に真珠層細工の装飾が施してありました。調査では、この装飾的な特徴は高価なバンジョーに限って見られ、それが廃棄されたかもしれないという見方を排除することができるかと示唆しています。なぜなら、美しい古い楽器ほとんど廃棄されることなく、それらの美的、装飾的な価値から、大抵が保存されています。より重要なことに、真珠層のはめ込み細工は珍しく、細工装飾が施されていないバンジョーを“リスト”から除くことによって大幅にその数を絞り込むことができ、リストの可能性は高まります。それでも、そのリストから限定し、選ぶには多数の競合するものが残ります。そしてこれこそが、その神聖なるポップ界の遺品を探し出すには、最後まで避けられない、困難で苦勞するところではないでしょうか。

そうです、ジョン・レノンのサインはそのバンジョーのどこにも書かれていないかもしれません。しかし、今日の法医学的、科学捜査の技術をもってすれば、ジョン、あるいはジュリアが残した由来を確実に確かめることは可能でしょう、例えば指紋とかたぶん一本の髪の毛とか。この考えは少しこじつけのように見えるかもしれませんが、それほどかけ離れた話ではありません。ジョンのギャロトーン・チャンピオンのアコースティック・ギターは、1999年、サザビーに売りに出される前に、彼の血痕によって本物であることが証明されました。“クオリーメン（ビートルズの前身バンド）”のオリジナル・メンバー、ロッド・デイビスは、こう語ります。「1957年のことだよ、ウールトンの聖ピーターズ・フェイトで演奏している時、ジョンは、人差し指の先の皮膚がはがれたんだ。僕が弦の1本を交換している間に、ジョンのギターの中に血痕が残っているのを見たのを覚えているよ。サザビーが認証について僕に連絡してきたとき、僕は彼らにそれについて話したよ。そして、かすかではあるけれども、その時血痕がまだそこにあったね。」

レノン家のなくなったバンジョーを取り巻くミステリーは比較的まだ知られていません。しかし、こうしたニュースが迷いを取り除いてくれたので、何百人もの人が、ひょっとしたらこの品があるのではないかと捜し求め、家屋の天井裏や軒下、木造部を這い回ることでしょう。バンジョーは、安全に保管するために、こっそりと仕舞い込んで隠され、そのまま忘れられてしまい、今もずっとそこにあるのでしょうか。もちろん、そうかもしれません。遺品とはそういうものです。だってそうでしょう、我々皆、「アンティーク・ロードショー（イギリス BBC のテレビ番組）」を見ていましたよね！[現在、日本でもこれに似た番組がありますね。]

では、ザ・ビートルズ 50周年を祝い、その全てを可能にしてくれたジュリアとバンジョーに、グラスを揚げて乾杯しましょう。だって彼らなしでは、世界はもっと静かであつまらない場所になっていたでしょうから・・・。

新刊書情報

題名： Julia's Banjo
言語： 英語
ジャンル： 洋書 小説
著者： Rob Fennah & Helen A Jones ロブ・フェナー & ヘレン・A. ジョーンズ

様式&発売日： 電子書籍：2012年9月25日（イギリス発売日）
▶ アマゾン Kindle <http://www.amazon.co.jp/> <http://www.amazon.com/>
▶ 楽天 kobo <http://kobo.rakuten.co.jp/>
ペーパーバック版 2012年11月22日（イギリス発売日）
出版社： Pulse Records Ltd. パルス・レコーズ（イギリス）
ファイブ・クロスカルチュラル・メディア株式会社（国内連絡先）

詳細はウェブサイトをご覧ください。 www.juliasbanjo.com
お問い合わせ： info@pulse-records.co.uk（イギリス）
office.tokyo@five-crosscultural.com（日本国内）

